

わ ち だ

株式会社 西村交益社
やまぶきカード会員情報誌

Vol.10



2021
SUMMER
AUTUMN



つるぎ会館でのお葬儀・法要が会員価格で！
但馬内50店舗のお店でお買い物がお得に！
QRコードから簡単にご登録できます。

お申し込みフォームはこちら



登録
無料

つるぎ会館

株式会社 西村交益社

ホールのご予約・お問い合わせは

☎ 0120-62-5909 [つるぎ会館]

〒667-0044 兵庫県養父市八鹿町国木133-1

www.koekisha.info



スタッフ募集

パート・アルバイト 週1日1時間から
正社員も同時募集中！ まずは上記までお電話ください。(担当/岡本)

インフォメーション

協力店ショップガイド

おしえて！戌亥先生

音楽室だより／中嶋由紀

タイ茄子を求めて／伊藤雄大

ブラジル滞在記／密祐快

川のほとりに浮かぶ工房

空想時間

「わだち」に込めた思い

つるぎ会館（株）西村交益社

ある日、会館を訪ねて来られたご夫婦。
「自分達の葬儀の事を相談しておきたい」との事でした。
ご主人が困難な病気と闘っておられる事、二人の娘さんは、
それぞれ嫁がれて、遠くにお住まいであること・・・など、
ご事情をお聞きしてから
プランの内容や式の流れ、費用など提案しました。
話が終わり、コーヒーをお出しすると、
「よしっ、これで終(しま)いは、決めた。あとはこれからどう精一杯生きるか。
コーヒーが特別美味しく感じるわ。」とおっしゃいました。
そのことがずっと胸の奥にあり、当社にその「これからの人生」を
少しでもサポートできる事がないかとの思いから、会員カードを作ったのです。
まだまだ発展途上ではありますが、もっとお得で便利なカードにしていきたいと
思っております。

「わだち」は、車の通ったあとに残る車輪の跡の事です。
古代ローマ遺跡を旅した時、何千年も昔の馬車の跡がくっきりと残っていました。
会員の皆様が歩いてこられた、尊い人生がそこに重なるように思います。
会員情報誌の名前を「わだち」にしたのはその思いがあったからです。
「今日という日は、残りの人生の第一日目である」
私達のこの「わだち」が少しでもお役にたてることを願って。



空想時間

子どもも大人も

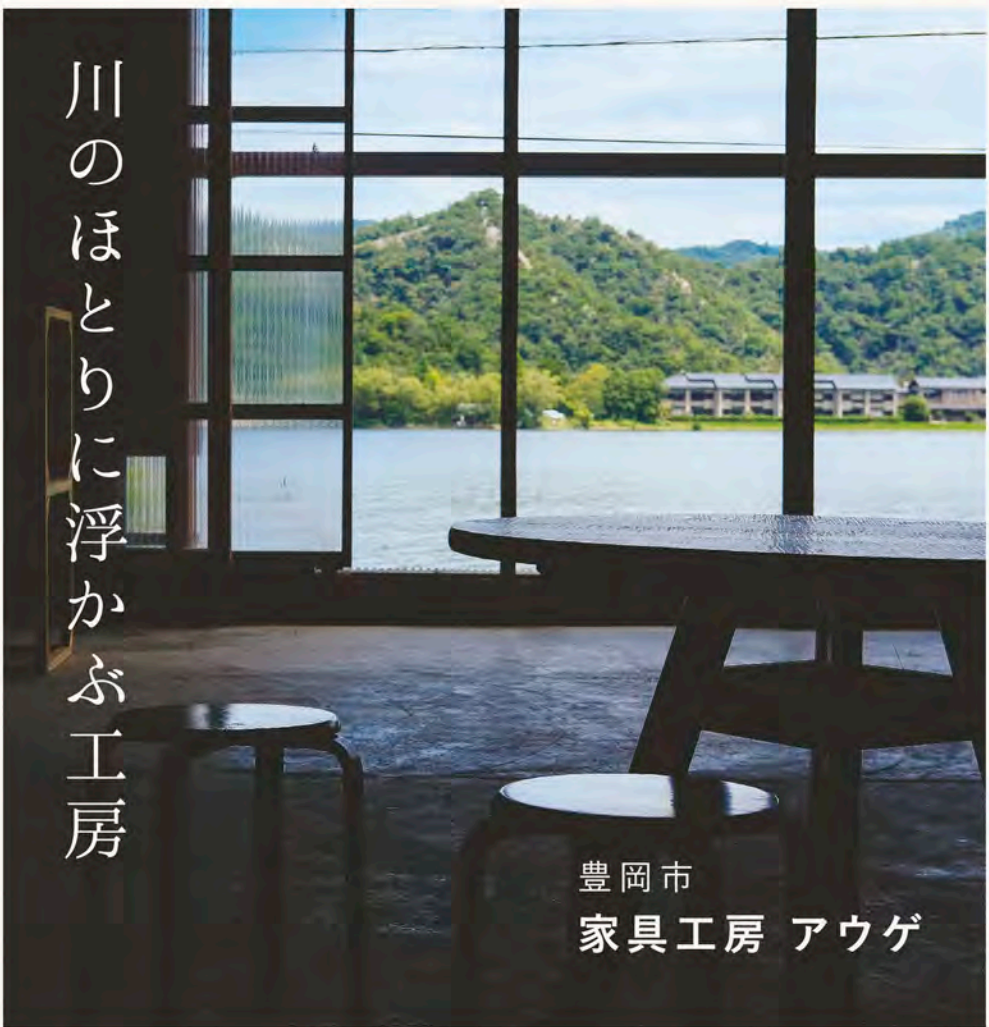
人は誰でも空想し、それをカタチにしようとする。

それぞれの個性が混ざると、良くも悪くも世界になる。

今会いたい人。

空想をカタチにする素敵なクリエイターは

きっと身近にいる。



川のほとりに浮かぶ工房

豊岡市
家具工房 アウゲ

目の前を悠々と流れる円山川。すぐそこには日本海が広がっている。なんとも開放的なこの場所で、但馬で群を抜いてオシヤレでモダンな家具が作られている。城崎町にある草分みのる(くさわけみのる)さんの家具工房「アウゲ」だ。お弟子さんたち3人を従えて、日々家具作りに打ち込んでいる。

アウゲで作られる家具の数々を見せてもらうと、和物から洋物までジャンルはいろいろ。デザイン性に富んでいる上に機能性を兼ね備えた逸品ばかりが並んでいた。クラシック調のカチツとした棚があるかと思えば、遊び心満載のリングの形をした可愛い座卓があり、どれも個性豊か。魅力的でつい物欲がかき立てられてしまう。

草分さんは豊岡市生まれの但馬人だ。小さい頃から物作りが好きで、職業訓練校の木工科を卒業後、神戸の欧風指物の老舗で7年間修行した経歴を持つ。楽器店や住宅販売、看板屋さんなどの仕事を転々とし、約30年前に地元の

但馬でアウゲを始めたという。最初は主にクラシック調の家具を作っていたそうだが、様々な木材や家具を見る中で、作りたい家具のイメージがどんどん広がり、いろんなタイプの家具作りに挑戦するようになった。

アウゲの家具の魅力を引き立てるのは、材料に使う但馬産の木材。どんな特徴があるかという点、斜面に生えていた時の名残で家具にしてからも曲がったり歪んだり扱いにくい木材らしい。けれど、草分さんにとっては扱いにくいを通り越してむしろ面白い素材。まっすぐでどれもキチツとした輸入材よりも、いろんな木の状態や模様があり、家具作りの発想がどんどん膨らむという。

「木の暴れている表情を出すのが楽しい。木のフシなんかもなるだけ美しく見えるようにする」と、草分さん。

使う種類はトチやケヤキなどの広葉樹を主に6〜7種。作りたい家具に素材を当てはめることもあれば、素材を見てからどんな



家具を作ろうかと頭の中で思い描くこともある。時には虫が食った跡や雷で焼けた部分もすべてデザインとして家具に活かす。自由な発想で素材で遊ぶから、見たことがないような一点物の家具が出来上がるのだ。家具完成後のメンテナンスも仕事のひとつ。扱いにくいといわれる木材は、草分さんの手によってすべて個性に変わり、見て楽しい、使って心地よい家具になる。

草分さんとお会いして驚いたのは、絵がとびきり上手なこと。頭の中のスケッチを実際に絵に描いていく作業を大切にしているという。お弟子さんたちにも、「カンナの使い方の勉強ばかりではなく、頭の中でどんな絵が描けるか、どういいう家具を作りたいか、どんな家具を美しいと思うかを考えてほしい」と話していた。

今日も居心地のいいあの工房で、作りたい家具を思い描きながら、イメージをカタチに変える草分さんなのだ。



現在、草分さんのアーティスティックな一面が堪能できる展覧会「家具の世界に遊ぶ モダン・クラシック・アート」が兵庫県立円山川公苑美術館で絶賛開催中。草分さんが家具職人になってすぐの頃に作った味のあがる洋物家具から、モダンなテーブル、キャビネット、厨子(仏壇)などなど、いろんなジャンルの家具に出会える。中には、面白いエピソードを持つ家具も。家に生えている柿の木にクマが来るため切ることに。その柿の木で記念に家具を作ってほしいというオーダーでできた一品など……。この機会にぜひ足を運んでほしい。



草分みのる 作品展

家具の世界に遊ぶ

モダン・クラシック・アート

2021年7月10日(土)-10月10日(日)

兵庫県立円山川公苑美術館

9:00-17:00 会期中無休

観覧料/大人350円 高校生以下無料

つるぎ会館やまぶきホール・ショップでもアウゲさんの厨子 展示中!!

家具工房 アウゲ

TEL.0796-28-3621
兵庫県豊岡市小島1001
artwood-auge.com



カード
優待特典

オーダーいただいた方に
手作りガラス3点セットを贈呈

ブラジル帯在記

ベルチオーガの思い出 2

ブラジルのお寺には檀家制度はないので、このお寺に葬式や法事を頼んでもかまわない。信頼できる僧侶が勤めるお寺にお願いするのが普通だ。その時の法事には家族が位牌を持参するのだが、戒名を見ると他宗の場合も多々あり、日本では位牌を作らない宗派までもなぜか位牌を作っている。土日には平均5〜6件の法事が予約されていて、結構くたびれる。その当時3人の僧侶が勤めていて、平日の月曜日が私のお休みの日だと知っている爺様が、再び「明日お休みだからベルチオーガに行かないかい」って誘ってきた。前回書いた牡蠣にあたったあの海辺の町だ。「あの時、食べた牡蠣で下痢して大変だったから嫌だよ」と答えると、「じゃあ、今度は牡蠣を食べなかつたらいいじゃないか。海を見ながら生ビールを飲んだら旨いぞ」と笑いな

がら私の弱いところを突いてくる。続いた法事で疲れた脳裏に生ビールのジョッキが浮かんだ瞬間、「じゃ、行こうかね」って言ってしまった……。いつもの4人でのベルチオーガ行きとなった月曜日。気温は高めで天気は曇り。一緒に乗って行く日系二世のジョンが面白い話を始めた。今日までの人生で3回も強盗にやられたという。「3回目の時は銃で撃たれたので死んだと思ったら玉が頭ぎりぎりの所で外れて死なずにすんだわ」。「へたくそな強盗だったんだなあ」そう言ってみんなで大笑い。ブラジルでは『SORTE(ソルチ)』という言葉をよく使う。『運』の事だ。良いも悪いもすべて運。何が起きるかわからない国だからだ。毎年百人を超える人が落雷で死亡するのも運の一つ。ジョンが生き残ったのも運の一つ。

話を聞いていたら、峠越えして車はあのいまわしい生牡蠣の町、ベルチオーガに到着した。この日は結構な数の海水浴客が浜辺にいたので、目の保養には良い日。前回、牡蠣を食べた浜茶屋でまずはビール。4人の酒飲みがいるとすぐに生ビールは空っぽになり、追加を重ねて相変わらずふざけた話で宴会が盛り上がった頃によくややくツマミが運ばれてきた。大皿に盛られた小ぶりのフライドチキンだ。

それを見た爺様が追加を頼む。ビールを飲んでいると二皿目がやってきた。「みなさんも食べてよ」と言うと、「俺たちはビールさえ飲んでいたら充分なんだ」と言ってみまもうとしない。一緒に食べたらしいのと思いつつ一人が二皿目の半分を食べて満腹になった。今日は良い旅だ。

「今日は牡蠣じゃないから安心して食べてよ」と爺様が言う。
「うまそうやね。でも日本のフライドチキンに比べてたら小ぶりやね」。
「これはチキンじゃなくてフライドウズラさ」。
「へえ、ウズラって市場で売っている小さい卵のあのウズラ?」。
「そうそう、結構旨いよ。食べてごらんよ」。生ビールを片手に持った爺様が勧めて言うので一つまんで口に入れる。

翌朝、誘ってくれた爺様がお寺にやってきたので、昨日のお礼を言って「フライドウズラ本当に旨かったわ」と話すと、爺様がニタニタ笑いながら、「あれはウズラじゃあないんだよ Sapo (サポ)だ」と言う。それを聞いていた受付嬢が首を横に振りながら、気持ち悪そうな表情をした。「Sapoって何?」。私には初めて聞くポルトガル語だった。
「カエルだよ」と爺様が悪気もなく笑って答える。「えっ、カエルってあの池のカエルのことかい?」。
「そう、でも食用カエルは旨かっただろう」。

「こりゃあ旨いねえ。でも鳥だけに小骨が多いね。そう言いながら次々と口に運んだ。その日は朝食抜きだったこともあって美味しかった。一皿のほとんどは私一人が食べた。感動する味だった。

それを聞てからお腹の中に何十四匹ものカエルの肉があるのを想像しては、気持ち悪くて何度も吐きそうになった一日だった。今でもカエルを見るとあの味を思い出してしまう。カエルは嫌いだ。



高野山真言宗高照寺
花の寺の「花説法」は有名で、毎年訪れるファンも多い。
兵庫県養父市八鹿町高柳1156 tel.079-662-2865



高野山真言宗高照寺(花の寺)名誉住職
密祐快(みつゆうかい)
青年時代に中南米を放浪。放浪中の2年間、グアテマラのインディオ達と暮らす。帰国後、僧侶として、又現代美術作家として各地で活動。高野山の命を受け、南米開教区総監としてブラジルに赴任し、3年間の任務を終え、帰国。

花とブルース

タイ茄子を求めて



2020年2月。タイ語はおろか、英語すらろくに話せないまま、タイの植物防疫所の門を叩いた。

両手にはビニール袋3枚にみっちり詰めたタイ野菜の種子たち。「いつ帰国ですか?」と職員が聞く。「今日の夕方です」と答えると、職員一同がざわつき始める。バンコク中を歩いて買い集めた50種類以上の種子。これだけの量を当日に検査しろなんて、どうかしてる!と言ってるのだろうか。

「ちょっと見せて」と言うので、袋を渡す。「マクワ(茄子)、マクワ、マクワ、マクワ……、どんだけマクワ好きやねん! (意訳)」と呆れつつ、半笑い。恥ずかしくなってきた。

そこまではまだよかったが、袋の中から農家に頼み込んで譲ってもらった「カオニャオ(長粒種の餅米)」が見つかった瞬間、場が一変した。「カオニャオ!?」「カオニャオ!」「カオニャオ!!」と大騒ぎになり、まるで違法ドラッグを扱うように、カオニャオが入ったビニールを抱きしめ、強く「ノー」と叱られる。米の種もみを輸出するなんてとんでもないことだったらしく、奥の部屋から(おそろく)一番エライ人まで出てきた。「モノを知らない、会話も通じない、ヤバイ日本人が来た」。そう思われたのだろうか。

ここでは書ききれないほど色々な事件があったが、それはともかく、チップを奮発さえすれば時速130kmで爆走してくれるタクシーのおかげで予約していた飛行機に乗ることができ、日本にタイ野菜の種子を持ち帰ることができた。

苦労して持ち帰ったタイの種子たちは、現在、わが家の畑に根を下ろしている。あの日職員が「どんだけマクワ好きやねん!」と言った(かどうかは知らないが)ように、特にタイ茄子は独特で、興味深い。

タイでは、直径5cm程度の小さな丸いタイプがいちばんポピュラーなのが、変化球として、なかには長さ3cm程度の小指サイズのナスもある。どれも、イタリアナスのように皮が少し硬いが、薄い。世界中探しても、こんなタイプのナスを好んで、選抜・育種している国はないように思う。火を通すと中がトロツとするため、タイ伝統のカレーやスープにも向く。なおかつ、皮が厚くなく、小型なので、炒めてもちゃんと火が通る。中華料理の影響が色濃い現代のタイ料理に合うのかもしれない。

タイ茄子の極北といえば「マクワプアン」もある。パチンコ玉サイズにしかならない小さなナスで、和名はスズメナスといって野生のナスに近いもの。木の生長は遅いが、ある程度大きくなると巨大化し、2mをゆうに超える低木になる。味は、

一言でいうと、ものすごく苦い山菜の味。ところが、タイの人たちは、辛くて魚の発酵臭がするディップにつけて、生で食べ、「アロイ(美味しい)」と言う。食文化の宇宙がチラ見できる。

ところで、じつはこのマクワプアン、わざわざ頑張って輸入しなくても、かなり昔から日本にあったことが、半年前に発覚した。マクワプアンの学名は「ソラナム・トルバム」という。「トルバム」と聞いて、ナス専業農家ならピンと来るかもしれない。接ぎ木台木品種として定番の「トルバム・ピガー」は、マクワプアンを選抜したものなのだ。ホームセンターの接ぎ木苗を買って、穂木をちょんぎって台木の芽を育てると、かなり高い確率でマクワプアンがなるはずである。

ついでに、タイ語で「ドークケー」というマメ科植物(開花しきつけない白い花を食べる)を輸入する際には日本の税関でひと悶着あったが、その近縁種は、じつは日本で山ほど育てられていることも最近知った。水田転作畑の緑肥としてまく「セスバニア」がそれだ。

台木だと思っていたもの、緑肥だと思っていたものが、他国では立派な「野菜」であり「食材」である。「バクチー1kgと、ドクダミ300g」とベトナム料理屋さんから発注されても、なにも驚くことはない。

伊藤 雄大 (いとう ゆうだい)

1985年生まれ。大阪府能勢町在住。東京での農業系出版社勤務をへて、能勢町で植木屋に就職。現在は、農業・農家取材・植木屋の3足の草鞋で生きている。

instagram@yudai_itou





音楽室だより

一番強そうな作曲家名前対決！



「とよおかの」という名の音楽祭を、実行委員会を立ち上げて準備していました。どんなジャンルの人も、プロアマ問わず、誰でも参加出来る音楽祭。8月29日開催予定で準備していました。言い出したので実行委員長をいたしました。音楽祭の事でいつも頭がいっぱいでした。しかし、この感染拡大。考えてみれば、この連載が始まって以来ずっとコロナと私と音楽と。なかなかwithコロナとはなりません。苦渋の決断とはこのことかと思ひながら苦渋の決断をしました。延期です。安心して楽しめない音楽祭って、本当に市民の為の音楽祭かと考えたら、違うなと思うのです。その時が来るまで再び力を蓄えます。あまりにシリアスに真つ当な思考で毎日過ごしていたので、反動でくだらないことばかり考えています。頭が勝手に。ひとりで。今回はそんな私がお送りします。音楽室便り。先生はちょっと役立たず編。

料理名で一番強そうな名前は何か。一度熱く話したことがあります。ピーフストロガノフ、ボルシチという圧倒的な屈強さを感じさせるロシア勢。ペスカトール、ゴルゴンゾーラとおかしな技を繰り出しそうなイタリア勢。日本にも強いのはないのか、と探した結果、最も強そうだと判定されたのは「バッテラ」だったという。そこでくだらない事ばかり考える近頃の私は考えました。

『一番強そうな作曲家名前対決』

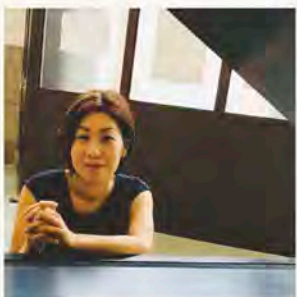
わざわざSNSで緊急調査までしてしまった。どうやら強そうな名前というのは、プロレスのリングコール「赤コーナー！」に続いて呼ばれた時にどれほどコイツはやばそうだと感じるかどうか、というところに判断基準があるようで。

作曲家界でもやはり強かったロシア勢。プロコフィエフ、ショスタコーヴィチ、ハチャトゥリアン。濁点が強さの決め手かと思っただけで意外とそうでもない。なんだかわからないけど夜道でバッタリ会いたくない。ペーターヴェンも強そう。単に見た目なのか、曲のイメージなのか、よくわからないけれどとにかくこの人とは口喧嘩をしたくない。意外と票を集めたのはドヴォルザーク。「赤コーナー！ チェコから来た国民楽派！ドヴォルザークー！」。絶対強いね。だけど今調べたらファーストネームがアントニン。喉の薬の名前みたいだからそれは内緒にしておこう。日本にもいました。團伊玖磨(だんいくま)。團、って言い切る感じがカッコいい。でもお顔立ちがとも上品だから、実際にったら印象変わるパターンかしら。團さんってもっと強そうな方かと思ってました。しかしとにかく一番強いのはマーラーに違いない。全てを掌握したラスポス、マーラー。決して姿を見せない闇の支配者

マーラー。何の根拠もないけど、マーラー。という事で、勝手に妄想、強い作曲家選手権終了。でも結局曲のイメージが知らぬ間に影響している感が否めない。名は曲を表すなのか、その逆か。

このまま勢いで強そうな楽器妄想もいってみましょう。でかい楽器が強いか、といえそうですがなさそう。ピアノは地震が来たら下には隠れるけど、ひたすら防戦。そもそも全体的に扱う人物も猫背で弱そう。ウッドベースも同じか。ドラマーは強そう。スティックとかマレットをいっぱい投げられる。シンバルで防御も出来るし。昔そんなドラマがあったぞ。85年の「ボニーテールはふり向かない」の伊藤かずえはスティックで喧嘩してた。いいな。それと多分、トロンボーン強い。硬そうだし、意外な時に突然スライドが伸びてきて、うおっとなりそう。しかしこんな事を書きながらも、かつて友人がトロンボーンの仕事を持って歩いていたらかなりの確率で職務質問されると言っていた。筋肉マンみたいな人だった。やはり人物のイメージなのか。

それにしても今回の一連の妄想は誰の役にも立っていないだろうという確信だけがある。連載がなくなったりはしないだろうか。



中嶋 由紀 (なかじま ゆき)

ピアニスト。豊岡市在住。地域密着型ミュージシャンとして様々な活動をしている。一般社団法人ワンノート豊岡を立ち上げ、代表理事として地域のコンサートなども企画。事務所兼喫茶店でコーヒーも淹れている。

喪主 <男性の洋装>

- モーニングコートを着用
- シングルのベストで白い襟ははずす
- ネクタイは黒の無地、タイピンは使わない
- 靴下は黒、靴は紐を結ぶフォーマルなもの
- ズボンは地味な細いストライプのもの
- カフスポタンは黒い石かごく目立たないもの

※通夜はダークスーツもしくはグレー系に黒ネクタイでもOK。
内輪の葬儀の場合はブラックスーツも可。



おしえて!戌亥先生

Q

同窓会で喪主経験のある同級生が半分位いて、驚きました。自分も色々準備をしておこうと思います。喪主としての服装について教えて下さい。

喪主 <女性の和装>

- 黒羽二重、染め抜き五つ紋つきの着物に黒の帯を合わせる
- 小物一式は黒に統一
- 帯締めは丸くけ、丸打ち、平打ちいずれでもOK
- ぞうりは布製のものが正式

※通夜では、縞か無地に近い着物に黒の帯でも可。



喪主 <女性の洋装>

- 黒のアンサンブルかワンピース又はスーツを着用
- アンサンブルの下のワンピースは七分袖か長めの半袖
- ツーピースを着る場合、ブラウスはつやのない素材を選ぶ
- 靴は低めの黒のパンプスが楽
- 靴下は黒またはチャコールグレー
- バックは布製でさげ手のあるもの
- アクセサリーは一切用いないのが正式



なるほど豆知識

喪服にはパールのアクセサリを着けるものと思っている人が多いようですが、アクセサリは身を飾るものですから、死者にはもちろん遺族に対しても思いやり欠けることになります。従いまして、アクセサリは一切着けないのがマナーですが、着けるのなら光沢のない黒玉のネックレスにしたらいでしょう。



冠婚葬祭コンサルタント

戌亥 正三郎

関西テレビ・毎日放送でもお馴染み、業界第一線で活躍中の冠婚葬祭アドバイザー。終活セミナー、エンディングノートの講師で日本中を駆け回る超多忙な毎日。また、日本のしきたりや食育の講演も多く、全国のセレモニーホールで新人研修にもあたる八面六臂の活躍ぶり。2009年より弊社顧問。